

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	スポーツ科学科		科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	救急処置法 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	
担当教員	井上 佳子	実務経験とその関連資格	修士、JSPOT-AT、日本赤十字社救急法指導員、日本ライフセービング協会BLSインストラクター			
《授業科目における学習内容》 本講義では、スポーツ現場における生命に関わる重大な事態から日常的な外傷・障害まで、緊急時に適切な初期対応を行うための知識と技術を習得する。緊急時対応計画(EAP)の策定プロセスを理解し、教職員・部活動指導員といった内部関係者や外部指導者、救急隊等といかに連携するかを学ぶ。また、心肺蘇生法(BLS)、熱中症、頭頸部外傷、心臓関連事故などに対する迅速な評価・処置法について、実践的なシミュレーション実習を通して習得することをねらいとする。						
《成績評価の方法と基準》 試験素点60%(筆記・実技試験) 出席点 20% 平常点 20%(実習への参加態度、シミュレーションでの連携・リーダーシップ等を評価)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 公認アスレティックトレーナー 専門テキスト⑤「救急対応」(最新版) 各種テーピング、救急キット、BLS用マネキン、AEDトレーナー、バックボード等						
《授業外における学習方法》 毎回の実技項目については、授業後に必ず手順を復習し、手順書を見なくても体が動くレベルまで自己研鑽に励むこと。また、自身が関わるスポーツ現場のEAP(緊急時対応計画)やAEDの設置場所を実際に確認してくること。						
《履修に当たっての留意点》 本科目は人命に直結する非常に重要な内容を含みます。実習では実際の現場を想定し、常に緊迫感と当事者意識を持って取り組んでください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	救急対応の意義とATの役割、関連法規(善きサマリア人の法など)を理解する。	テキスト	テキスト第1章を読み、救命の連鎖について予習する。	
		各コマにおける授業予定	ガイダンスと救急対応の意義			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	スポーツ現場における緊急時対応計画(EAP)の重要性と構成要素を理解する。	テキスト	身近なスポーツ施設や学校のEAP、AED設置場所を確認する。	
		各コマにおける授業予定	EAP(緊急時対応計画)の構築①			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	地域クラブ活動等において、部活動指導員(内部)や外部指導者とEAPを共有・運用する手法を学ぶ。	テキスト	現場の異なる立場のスタッフ間でどう情報を伝達するか考察する	
		各コマにおける授業予定	EAP(緊急時対応計画)の構築②	配布資料		
第4回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	現場の安全確認と、傷病者の初期評価(一次評価・二次評価)の手順を習得する。	テキスト	意識レベルの評価法(JCS, GCS)を暗記してくる。	
		各コマにおける授業予定	傷病者の評価手順			
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	バイタルサイン(脈拍、呼吸、血圧、体温など)の正しい測定方法を習得する。	テキスト	安静時の自身の脈拍と呼吸数を正確に測定し記録してくる。	
		各コマにおける授業予定	バイタルサインの測定			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	一次救命処置(BLS)のアルゴリズムと、胸骨圧迫・人工呼吸の理論を理解する。	テキスト	最新のJRC蘇生ガイドラインに目を通しておく。
		各コマにおける授業予定	BLS(一次救命処置)の基礎		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	質の高い胸骨圧迫と人工呼吸を連続して行えるようになる。	ダミー	前回のテキストを復習し、圧迫のテンポと深さを確認する。
		各コマにおける授業予定	BLS実習①(胸骨圧迫・人工呼吸)		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	AEDの安全で迅速な使用手順と、心臓関連事故発生時の対応を習得する。	AEDトレーナー	AEDの音声ガイダンスの流れを動画等で事前確認しておく。
		各コマにおける授業予定	BLS実習②(AEDと心臓関連事故対応)		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	気道異物除去(ハイムリック法等)や、小児に対するBLSを習得する。	ダミー	窒息時のサイン(チョークサイン)等について調べておく。
		各コマにおける授業予定	BLS実習③(気道異物除去等)		
第10回	講義・実習形式	授業を通じての到達目標	出血の種類を分類でき、直接圧迫止血法など適切な止血処置が行える。	包帯・ガーゼ・三角巾	ショックの5P(症状)について暗記してくる。
		各コマにおける授業予定	止血法とショックの予防・対応		
第11回	講義・実習形式	授業を通じての到達目標	擦過傷、裂創などの創傷の種類を理解し、感染予防に配慮した処置ができる。	テキスト 救急セット	湿潤療法と従来の乾燥させる治療法の違いを調べる。
		各コマにおける授業予定	創傷の処置と感染管理		
第12回	講義・実習形式	授業を通じての到達目標	骨折、脱臼、捻挫など筋骨格系外傷の初期症状の評価ができるようになる。	テキスト	骨折の固有症状と全身症状についてテキストを予習する。
		各コマにおける授業予定	筋骨格系の救急対応①(評価)		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	RICE処置の正しい実施と、副子(シーネ等)を用いた固定技術を習得する。	氷・包帯・副子	身の回りにあるもので代用できる固定具のアイデアを考える。
		各コマにおける授業予定	筋骨格系の救急対応②(RICEと固定)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳振盪のメカニズム、SCAT等を用いた評価方法を理解する。	テキスト	脳振盪のレッドフラッグ(危険兆候)について暗記してくる。
		各コマにおける授業予定	頭部外傷の評価と対応①		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳振盪後の段階的復帰プロトコル(RTP)と、セカンドインパクト症候群を理解する。	テキスト	段階的復帰の各ステップにおける運動強度と期間を予習する。
		各コマにおける授業予定	頭部外傷の評価と対応②		